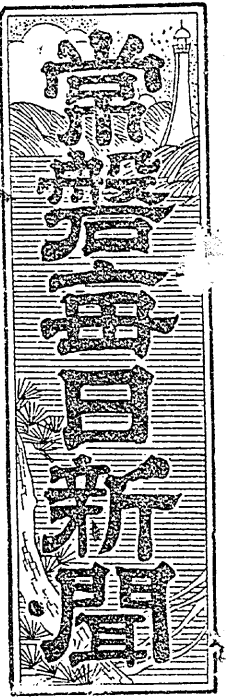


刊夕日十月三月一十



定価 一部五銭 金五拾銭 郵費五拾銭
 発行所 常新日新報社 行金五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 印刷所 常新日新報社 電話六三〇番

母の横顔

岡田 鶴子

「母なる大地」と云ふ言葉があるが、およそ地上に生を享けた者にとつて、母とはまことに豊かな、抱擁力に富んだ、なつかしい意味を持つてゐる。

ある知人は、子なき友に「貴方が人の親となつた時より人生観は複雑になり、仕事に深さ、静さをたれて、人間としての價値は一層高まるだらう」と云つた。またある母が別れてゐた子供を、様々な障礙を飛び越えて自分の手許へ取りかへした時、ある友は「母性の本能の押し、力強さをこはいとは思はないか? 次の時代をよりよくするため、この母の本能がどう働くか、君は見まいとしても無駄だ」と云つた。

母性の本能、それは神秘である。そしてそこにはしばしば奇蹟が起る。母についての讚美は多くの人生に依つてなされてゐる。私もまた、母性の存在意義を重大に思ふ一人である。けれど私はここでは母の側面を書いてみたいと思ふ。本能は美しい焔だ、汚物を浄化し、闇をてらす火焔だがまた何物をも焼き盡さ

ずにはおかない焔だ。本能の恐ろしさは、そこに在る。よく鼠の母親は、子供を可愛さの餘り「舐り舐り」して骨になるまで舐つて殺してしまふさうだ。人間の母親にもこんなのはないだらうか?

私は母の壓力に苦しむ不幸な青年を知つてゐる。この人のお母さんは、非常に聰明な婦人で、所謂良妻賢母だが、一人息子を、最高學府まで優秀な成績で仕上げ、それこそ、友達を選び環境を選び、どんな事もお母さんに相談させるやうにして、成人させたところが、學校を卒業し、實社會に出ても母の意志の圏外に出られないのである。友人

【朝】味噌汁——豆腐 小付 海のり 佃煮
 【晝】八つ頭 ふくめ
 【晩】蒲焼 うなぎ 粉山椒 白菜鹽もみ 花かつ



【俳句】

茶の花

飯田 残雪

茶の花や母亡きあとの姉弟

茶の花や物言はぬ母彼の岡に

遠くより芝居見に來し寒さかな

美しき子が夢を見る蒲團かな

落葉路遠き灯しに二人坐す

落葉にも似たる我等の戀なりし

星が流れる

子供はさも嬉しうに叫ぶ

大人はちらつと無情に見る

矢張り子供は幸福だ

星が流れる

私は歸らぬ昔をくつて一寸寂しくなるのだ

干ヤナギ 賣り始めました
 いか切込

鯉節 鯉鹽 辛

平土橋

丸仙鮮魚店

電六六二番

祝七五三

御寫し遊ばせ

お子様方

可愛いお姿を

御寫眞に!

当日は御祝として焼増壹枚御進呈いたします

平町寫眞師組合

組合員名(いろは順)

- 林 寫眞館
- 戸田 寫眞館
- 岡山 寫眞館
- 大野 寫眞館
- 太陽 寫眞館
- 中島 寫眞館
- ライト 寫眞館
- 青木 寫眞館
- アサヒ 寫眞館
- 齊藤 寫眞館
- サクラ 寫眞館
- 三光館 スタジオ

毎度有難う存じます

純上海式支那料理と

洋食!!

特製焼賣(シウマイ)

折詰調製致します。

お土産に是非お持ち帰り下さい。

折 30.50

平三・警察署通り

お食事と 契茶の店

今なり

是非!

御融通には御用命下さい 萬事便利な御相談に應じます



三井質店

平四・電六〇六番

かまぼこ 製造
 ね蒔屋

平町一丁目

お惣菜用 さつま揚 吉原揚

不味質

電話一四一番

青年聯合演習 火蓋を切る

あす分列閱兵 十年勤績指導員表彰

郡下青年學校聯合演習は、よ／＼今卅日鹿島村大字船戸地内の兩軍尖兵衝突によつて火蓋を切られた此の日絶好の小春日和に二千の健兒訓練服に身を固め午前十時を期し北軍第一校、西軍湯本校へ集結、銃器彈藥の配給其他の演習準備及び晝食を了し午前十一時隊伍堂々根據地を出發したが午後三時玉川村附近山野に於いて兩軍は屍山血河の一大遭遇戦を轉闘して本日は小名濱町に一泊、明日は同町附近に兩軍死力を盡しての攻防戦を行つて閉戦、小名濱小學校庭で兩軍の颯爽たる分列閱兵式舉行青訓十ヶ年勤績指導員を表彰するが兩軍演習裝定並に受賞者左の如くである

△第一日(北軍)平町東端小名濱街道十字に待機候派遣の後午前十一時卅分部隊行動開始、鹿島村船戸、玉川村林城の線に南進布陣午後四時主力衝突(南軍)午後一時部隊行動開始、斥候により敵隊搜索を兼ね尖兵中隊を鹿島村御代附近に主力部隊を同下藏持に待機午後四時前進戦闘開始
△第二日(北軍)午前、玉川村原木田東端に集結

展開線より斥候派遣同八時十分攻撃前進開始(南軍)午前七時小名濱町の主力陣地より斥候派遣午前九時突撃開始
(勿來)赤津一、小松章(渡邊)高木善枝(泉)齋藤昌孝 志賀繁 佐藤源一郎(好問)齒部真一(半)藤田祭助(内郷)大橋貞勝(桶賣)大平十藏(豊間)松

國民よ刮目せよ 本日健康週間實施

これぞ國運進展の準備工作 全國に呼應して管内活動

愈々本卅日より十二月六日まで七日間に亘つて縣下一圓に行はれる健康増進週間施行に當つて平町は日本赤十字社分會、愛婦分會、醫師會、齒科醫師會、藥劑師會、産婆會、看護婦會、理髮組合、食肉組合、牛乳組合、湯屋組合、貸座敷組合等各團體参加して開始したが同運動は國民の衛生思想を普及向上せしめ各種衛生施設の改善進歩を促し健康増進、國運進展を圖る意圖で先年から全國一齊に實施され効果大いに上つた実績に鑑み本年も施行されるので實施事項左の通り

- 一、衛生講話 片倉製糸第一 第二 第三小學校 中學校 女學校 商業學校
- 二、衛生相談所開設 十二月一日平警察署内に衛生相談所を設け午前十時より午後三時まで一般健康相談及無料診察の求めに應ずること
- 三、平町産婆會に於て期間中妊産婦の無料診察に應ずること
- 四、管内看護婦會は期間中突發事故ありたる場合は特に派遣し救護奉仕をなす
- 五、體重の測定 湯屋組

勿來關趾 禁獵區指定

勿來町の史跡勿來關趾附近は昔から雉、山鳥の棲息地として知られ繁殖率も多かつたが最近交通發達したため東京方面から盛んに狩獵家が入りこみ濫獲した結果著しく雉、山鳥が減少したので今回町當局及地元獵友會申請のにより縣では十二月一日から同關趾附近約一千町歩を狩獵禁止區域に指定した

本茂壽(大浦)早川雅偉(差鹽)松崎保吉(下三板)佐藤務

合 計及帳簿を備付け體重性別年齢等を取纏めること
六、衛生組合は期間中下水の浚渫實行のこと
七、見易き場所健康増進ポスターを添付し同ビラを撒布す

遠洋千五百哩沖 練習生初腕試

磐城丸に乗組んだ 水産講習練習生

縣立小名濱水産講習所練習生十名の一行は同所開設以來の試みとして昨廿九日午後七時同港出帆の縣指導船石城丸に乗組み小名濱沖合東南東千五百哩の遠洋漁場に向つたが約一ヶ月間の豫定で遠洋漁に從事し來月廿八日神奈川縣三崎港に入港一萬貫の鮪を水揚する意

平町で 下水浚渫

本卅日より施行される健康増進週間に際して平町は各衛生區長に示達して下水小溝の浚渫をすることになつた

古米手持簿で 共販延期

平農業倉庫の共同販賣は明日午後二時から同所で行はれる筈であるが郡内には新米出廻りが迫つて居るだけに販賣すべき古米所有者が殆んどなく明日の出荷申込は本卅日正午迄に一名もないので明日の共同販賣は延期された

女教員の卓球大會 石城郡小學校女教員の第八回卓球大會は來月十五日午前九時三十分より平第一小學校講堂で舉行される

産業懇談會 郡下四方部に

明一日は平窪組合で

石城産業組合部會は歲末も迫つて來たので郡内の産業組合を四方部に別けて各組合の事業並に事務の連絡懇談會を開くがその第一回懇談會は明十二月一日午前十時から平窪村組合樓上に開かれ内郷、好問、赤井、小川、平窪、高久、夏井の各組合代表が出席する

郡下教員 籠球大會

十五日に舉行

体協石城支部主催第四回郡下小學校教員籠球大會は來月十五日午前九時半より平第一第二兩校庭で舉行さ

- △平町 人 事
回 出 生
△北目町九 川島佐門氏二女百合子さん
回 婚 姻
△三丁月九 結城憲治郎氏(三三)白銀町一 高橋テルさん(二六)
△石川郡小鹽江村 宇田田字石戸屋七九 當時葱町鹽田宇佐美氏(二八)茨城縣多賀郡關田村大字關本下三八岡田悦子さん(二五)
- △搔樋小路二三 當時茨城縣新治郡土浦町三三三二桑原美智子さん(一ツ)
- △平職界紹介所報告
回 人 を 求 め る 方
△配達夫 卅才迄 日給七十錢
△水配達 卅才迄 月給六十圓
△事務員 廿才前後 日給

十五圓
△女中 十七才迄 月給五圓
△女中 廿二才迄 月給六圓
△女中 廿才前後 月給五圓
△トラツク助手 廿七才迄 月給十圓
△農夫 六十才迄 日給四五十錢
回 職 を 求 め る 方
△配達夫 卅才迄 尋二修
△女中 廿歲 尋卒
△女中 卅五歲 高卒
△自動車助手 廿一歲 尋卒
△旅館番頭 卅四歲 高卒
△料理人 四十四歲 高卒
△鐵筋工 卅一歲 高卒
△鐵工 廿一歲 高卒
美味!
芳醇!
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

喜びの平町行事

豪華夜の提灯行列

晝は旗行列宛然長蛇と化し
官民歡喜のルツボ絶頂に躍る

奉祝御誕生

縣社子鐵倉神社々頭の奉祝祭並に官民合同奉祝會を開
催する外晝は町内三小學校兒童の旗行列で全町を練り
歩くが

夜は全町を第一班、第二班に二分して午後五時卅分役
場前集合午後六時樂隊を各班に配置先頭にして第一班
は搔樋小路、紺屋町の一部を経て一、二、三、四、五丁目
立町、鎌田町より新川岸を月見町に出て新川町、南町
に抜け鍛冶町、材木町の中央より紺屋町から研町、長
橋町を経て裏公園を通り古鍛冶町に至り縣社下にて解
散することになった、尙第二班は第一班と五丁目まで
同行別れて大工町仲間町より柳町に出て四軒町、北目
町、胡摩澤、杉平、六間門より八幡小路、久保町を經
て菅の澤古鍛冶町に出て縣社下で解散、斯くて平町は
歡喜の奉祝に全町を色彩の豪華版を展開することにな
つた

平町陪審員

候補十三名決定

廿九日平町會議室で

平町の陪審員候補抽籤は昨
廿九日午後二時から平町會
議室に行はれたが左記十三
名當選した

- △紺屋町雜貨商柏原義一
- △四丁目洋品商緒狩庄平
- △五丁目雜貨商里見鐵太
- △月見町農業者根本一馬
- △田町菓子商小山田吉治
- △五丁目パン製造業山部藤一

政治△田町洋食業森川泰
一郎△新川町大工職三森
巳代松△南町自轉車商鈴
木彌太郎△南町染物業鈴
木留五郎△新川町大工職
林秀壽△三丁目雜貨商横
山万藏△鎌田町農業者鈴木
藤一

山崎清三氏に

記念品授與

鈴木陸軍大將より
平町紺屋町山崎清三氏は過
般石城在郷軍人分會の事業
資金として五十圓を寄附し
たので昨廿九日大日本在郷
軍人分會長鈴木莊六大將よ
り木杯並に感謝狀を贈られ
た

小名濱隔離閉舎

本年五月より患者を收容診
治療を開始した小名濱演習
隔離舎は此程閉舎したが今
年中の入舎患者は十名で昨
年より二名多く大部分チブ
ス患者で大半全快して居り

郡南兩市市場

遂ひに合併す

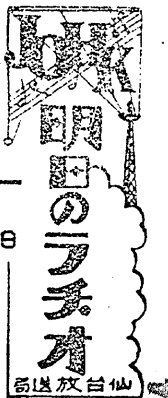
植田勿來兩市市場は従來事
毎に對立の態にあつたが縣
では勿來市場に屢々解散の
警告を發した事から兩市場
の合併問題が起り去る廿八
日植田市場に關係者が集り
協議の結果勿來市場は解散
して植田市場に合併される
事に決定した

貴金屬泥

懲役三年

平區で言渡

平町三丁目星野時計店々頭
より通り魔の如く三千餘圓
の貴金屬を窃取逃走同日平
署の手配中内郷村で逮捕さ
れた茨城縣那珂郡下館町生
れ住居不定無職前科一犯岡



今晚北西の風晴
後曇り明日は北
東の風様

今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
お話と喇叭「兵營」生
活の一日 庄野正三
後六、二五 講演「捕鯨の
話」志野徳助
後七、二〇 獨唱とピアノ
(時事新報社主催第四回
演劇大会)

これは一重に衛生主任齋藤
氏の病舎設備を患者診療に
萬全を期した結果であると
全快者一同は近く何等かの
方法で感謝の意を表する筈
であると

縊死した娘心

無軌道性愛の末路

無智な廿娘炭礦の悪習感染

湯本町大字湯本山ノ神地内
杉林中に廿九日午前九時半
頃縊死した地上九尺の高所に
縊死した娘の妙齡の美人屍體
あるを同山林を通行中の同
町渡口吉藏さんが發見届け
出たので平署から渡邊部長
出張視察の結果右は同町宇
入山上町坑夫長屋居住入山
炭礦坑夫柳原富治方工藤フ
ミ子(三)と判明したが
同女は北海道十勝國足寄
郡陸別村大字陸別上川原
三線生れで同人姉ツル
ものであると

小名の呉服屋に

二度忍こんた庄八

住居侵入並に準強盗と

相馬郡高平村大字上北高平
生れ字京塚三八七生れ住居
不定無職未定朋事尋庄八
(四)が去る九月二十六日午

明日の部
前九、三〇 少年少女獨唱
大會 松本俊枝 佐々木
行綱 永岡志津子
前一、〇〇 日曜 勳行録
倉光明寺中繼
前一、〇〇、四〇 講演「火災
の豫防」唐澤俊樹
前二、一〇 趣味講座
本阿彌光悦三百年忌 高
橋義雄
後八、五〇 全國琵琶大會
札幌仙臺東京名古屋大阪

廣島長崎より
後六、〇〇 子供の時間
偉人物語「十二月生れの
偉人」池田宣政
後七、三〇 漫談「十二月
の曆」花蝶川柳
後七、五五 連續講談 大
久保武藏 鏡一大島伯鶴
後八、三五 歌謡曲 青山
薫物
後八、五〇 物語「北風吹
けば」新國劇

愛妻の捜査願

濱町古港一二自動車營業山
田惣太郎氏は二三日前所要
の爲め上京此程歸宅してみ
ると喜んで迎へる筈の愛妻
?敏子(三)の姿が見えない
のみか家財道具一式を賣拂
ひ東京方面に家出した事發
覺今三十日憤慨して同町派
出所にこれが捜査届けを出
した

藤沼醫院

平町・紺屋町
電話五〇七番



明治太平記

(上段及上段)

(作) 寺島雄之助
(監) 野口松世

第二百八十八回

生者死者 (四)

「いゝのよ、醫者なぞ……あたし、あんたに抱かれて死にたい」

突伏したまゝ、肩先に波打たせてくるしさを忍んだ「ね、おまへさん、おまへさんのかはりに、あたしが何をやるのさ、いつてごらん」

「……あ、あたしのかはりに、ウ、ウエルズを刺してください、おねがひ」

ふたゝび息づまるやうな發作に苦しみながらも、おとわはおぎんの手を握りしめた。

「いゝとも、いゝとも……」
「だけど、おまへさん、死んぢやいけないよ。大志賀さんが、どんなに力を落すか、しれないわ」

兇悪な沈黙を乗せて、大志賀たちの馬車は、やがて品川の宿に入った。
馭者代りの茂平次は、もうすつかり馭者臺の居心地をうれしがって、胸をそり得意氣に鞭を振つた。
東京の猿真似もどきを、支するてまこに、限るわ

「いゝ。と、いつのまにかウエルズのことまで忘れてゐる風。」

車上の大志賀も、さつきからの殺氣立つた顔が、いくらかやはらいで見えた。彼に相變らずウエルズの片腕を執り、その胸板へあひ



首を突つけながら、揺られてゐる。
この異様な車上の光景は、たちまち通行人の眼に觸れてゐる馬車を、送迎しては、呆然見送るものは多かつたが、なかにはその結末を見と、げやうと、馬車のあ

いて何處へか持運んでゆくものゝやうだつた。
そして此取巻いてゐる人々の考へは同じだつた。いままで異人といへば開化の先導者としていつも日本人われ／＼を眼の下に見、日本人を野蠻人の如くころんじ

を追ふものもすくなくなくなつた。

それが、品川ステーションあたりからいよ／＼多きを加へ、口々に何事かわめきながらついでくる。

黒羽二重の浪人風が、立派な異人とらへて、その胸にあひ首を擬してゐるさまも、馭者臺にそり身になつてゐる熊の皮の胸着をきた異形の人物も、ともに文明開化の今は、いやむかしでも見られぬ圖だつた。

何が始まつたんだろさういふ眼が、前後左右から集まつて、馬車を取巻

限つて日本人のためになんか／＼な眼にあはされてゐる何だか世の中がさかさまになつたのではあるまいかと口には出さぬがみんなさう思つた。

あとをつけてくる人数が怒濤のやうに背後に感ずると、いよ／＼茂平次は得意だつた。

その中にはいかめしい聲をはやした當世官員もをるだらう、商人も、諸生も、農夫も、老人も、女子供もをるだらう。あるひは遷卒だつてあとをつけて來てゐるかしれない。

その大環視の中を紅毛碧眼のけたものをとりこして、意氣揚々と本街道を進行してゆく愉快さは、北の海で、鯨を生け取つたにも比すべきであつた。

それにしては、大志賀の頭の上はさほどだ。同じ助太刀にしても、むかしの助太刀ならたうていこんな藝當はできない。たんに敵の血を見るだけではなく、生きてゐるうちに、市中をさらし廻つて、西洋異人の意氣地なささんご見せてやらうといふ、大志賀の考へは素晴らしいものだと思つた

一齒科一般
工科 齒列矯正科
一口腔外科

中野齒科醫院

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠

磐城共濟病院

内 科	小 兒 科	婦 産 科	外 科	皮膚泌尿器病科	花柳病科	X 線科	藥 局
院長 醫學士 石山 謙郎	部長 醫學士 佐藤 尚輔	部長 醫學士 黒澤 廣	部長 醫學士 大町 久藏	部長 醫學士 前澤 正	部長 醫學士 石山 謙郎	部長 醫學士 石山 謙郎	局長 藥劑士 鈴木 本寶

◎病室完備 入院隨意

難

内科一般

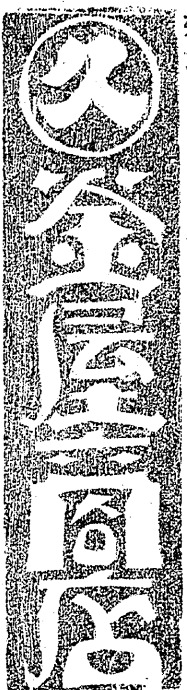
醫學博士 難波 陸

看護婦募集 平町大町新川端 電話五〇二

醫

院

磐城セメント會社特約店



□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は人の生命なり
磐城平町五丁目 電話九番九九

はねつぎ

桑原柔道整骨院

平町公園下電話六六四



玉屋洋品店 平町田町通電話六五五番